

事務事業評価一覧(課別)

令和7年度

教育部国分中央高等学校 (単位:千円)

事務事業名 計:	決算額	改善方向性		シートNo.
	37,842	コスト	成果	
2381 国分中央高校生徒・教職員健康診査事業	3,157	→	→	414-01
2382 国分中央高校活性化事業	12,583	→	→	414-02
2385 各学科課題研究支援事業	663	→	→	414-03
2386 国分中央高校設備整備事業	21,439	→	→	414-04

1. 基本情報								
事務事業名		2381 ー 国分中央高校生徒・教職員健康診査事業						
政策名		4. はぐみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)		所属		国分中央高等学校		
施策名		1. 立志と将来への希望を育む学校教育の充実						
基本事業名		4. 専門高校としての魅力を高める高等学校教育の充実		予 算 科 目		01 一般会計		
基本事業の内容 (総合計画より)		①各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性、教育水準の維持向上を図るとともに、学科間の連携した取組を推進し、地域に信頼される魅力ある学校づくりに取り組みます。 ②歴史・伝統を継承しつつ、時代のニーズに応じた高度な専門的技術や知識を持った人材の育成に努めます。 ③進路指導の充実を図るとともに、募集定員の確保に向けた取組を強化します。				10 教育費		
				04 高等学校費				
				01 高等学校総務費				
				事業期間		昭和33年度～		
基本事業の対象・意図		対象(誰・何を)		意図(どうしたいか)		根拠法令 条例等		学校保健法
		①国分中央高校 ②③生徒		①専門校としての魅力が高まる ②専門的技術や知識を持つことができる ③主体的な進路選択ができる		関連計画		特になし

2. 事務事業の事業概要・目的・指標<Do>							
生徒が安心して学校生活を送り、専門高校としての教育水準を維持するため、生徒と教職員を対象とした健康診査を実施する。生徒の各種検診や教職員のストレスチェック等を適切に行うことで疾病の早期発見と健康保持を図る。							

対象(誰に、何を対象にしているのか)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	R6(実績)	R7(見込)	R7(実績)	R8(見込)
ア	生徒	生徒数	人	760	767	764	738
イ	教職員	受診者数	人	94	95	95	97
ウ				0	0	0	0
意図(対象をどうしたいのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	R6(実績)	R7(目標)	R7(実績)	R8(目標)
ア	健康状態を知ることができる	受診率	%	100	100	100	100
イ	健康状態を知ることができる	受診率	%	100	100	100	100
ウ				0	0	0	0

3. 事業費推移		R6(決算)	R7(決算)	R8(予算)	4. 令和7年度の実績・成果		
事業費(千円)		3,313	3,157	3,704	生徒の健康保持増進を図るため、全生徒764名を対象とした内科・歯科等の定期健康診断及び1年生を対象とした心電図・レントゲン等の精密検査を計画的に実施した。保護者への早期通知により受診環境の整備に努めるとともに、検診の結果、治療や精査が必要とされた生徒に対し個別の保健指導を行うなど、心身ともに健やかな学校生活の維持に努めた。		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0			
	県支出金	0	0	0			
	地方債	0	0	0			
	その他	0	0	0			
一般財源		3,313	3,157	3,704			

5. 振り返り<SEE (check)>			
妥当性	①	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついているか	結びついている
	②	この事業を市が行う必要があるか？ 税金を投入して達成する目的か	実施すべき又は実施しなければならない事業
	③	廃止・休止の影響はあるか	影響がある
有効性	④	成果が向上する余地(可能性)はあるか	向上する余地はない
効率性	⑤	事務事業の手段を工夫することで、事業費を削減できないか 補助金など、交付先に働きかけて市の負担を削減できないか	削減できない
	⑥	事務事業のやり方(DX・外部委託等)を工夫することで、業務時間を削減できないか	削減できない
公平性	⑦	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか また、受益者負担の公平性が確保されているか	公平・公正である

6. 評価結果<(Action-PLAN)>		
(1)今後の事務事業の方向性		(2)令和8年度以降の改革改善内容(取り組むべき課題)
① 事業(成果)の方向性	→ 維持	
② コスト(予算)の方向性	→ 維持	

1. 基本情報									
事務事業名 2382 ー 国分中央高校活性化事業									
政策名		4. はぐみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			所属		国分中央高等学校		
施策名		1. 立志と将来への希望を育む学校教育の充実							
基本事業名		4. 専門高校としての魅力を高める高等学校教育の充実			予 算 科 目		01 一般会計		
基本事業の内容 (総合計画より)		①各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性、教育水準の維持向上を図るとともに、学科間の連携した取組を推進し、地域に信頼される魅力ある学校づくりに取り組みます。 ②歴史・伝統を継承しつつ、時代のニーズに応じた高度な専門的技術や知識を持った人材の育成に努めます。 ③進路指導の充実を図るとともに、募集定員の確保に向けた取組を強化します。					10 教育費		
					04 高等学校費				
					01 高等学校総務費				
					事業期間		平成24年度～		
基本事業の対象・意図		対象(誰・何を)		意図(どうしたいか)		根拠法令 条例等		特になし	
		①国分中央高校 ②③生徒		①専門校としての魅力が高まる ②専門的技術や知識を持つことができる ③主体的な進路選択ができる		関連計画		特になし	

2. 事務事業の事業概要・目的・指標<Do>							
本市独自の専門学科の特色化と部活動の活性化を図り、魅力ある学校づくりを推進する。外部指導者の招聘による高度な専門スキルの習得等を通じて、生徒の知的好奇心と意欲の醸成を図る。また、九州・全国大会等の上位大会へ出場する部活動への経費補助を行い、生徒が目標に向かって挑戦できる環境を構築する。							

対象(誰に、何を対象にしているのか)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	R6(実績)	R7(見込)	R7(実績)	R8(見込)
ア	生徒	生徒数	人	760	767	764	738
イ	国分中央高校の定員	国分中央高校の定員数	人	280	280	280	280
ウ				0	0	0	0
意図(対象をどうしたいのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	R6(実績)	R7(目標)	R7(実績)	R8(目標)
ア	九州大会・全国大会に出場できる	九州大会・全国大会出場への補助回数	回	13	10	18	13
イ	定員を確保できる	定員の確保率(入学した生徒数/定員)	%	100	100	90	100
ウ				0	0	0	0

3. 事業費推移		R6(決算)	R7(決算)	R8(予算)	4. 令和7年度の実績・成果
事業費(千円)		10,825	12,583	14,968	部活動の活性化を通じた魅力ある学校づくりを推進し、全国大会11回、九州大会7回に及ぶ上位大会への出場支援を行った。特に柔道部や女子ハンドボール部の顕著な活躍は、校内の士気を高め、学校の活性化に大きく寄与した。また、指定宿舍への舎監・寮監の配置により、入寮生の安全確保と生活指導を徹底した。入居一時金や家賃の補助を継続することで、保護者の経済的負担を軽減し、遠方からの生徒も安心して学業や部活動に専念できる環境を整備した。
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	4,900	5,800	6,800	
	一般財源	5,925	6,783	8,168	

5. 振り返り<SEE (check) >			
妥当性	①	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついているか	結びついている
	②	この事業を市が行う必要があるか？ 税金を投入して達成する目的か	市が実施することは妥当である
	③	廃止・休止の影響はあるか	影響がある
有効性	④	成果が向上する余地(可能性)はあるか	向上する余地はない
効率性	⑤	事務事業の手段を工夫することで、事業費を削減できないか 補助金など、交付先に働きかけて市の負担を削減できないか	削減できない
	⑥	事務事業のやり方(DX・外部委託等)を工夫することで、業務時間を削減できないか	削減できない
公平性	⑦	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか また、受益者負担の公平性が確保されているか	公平・公正である

6. 評価結果<(Action-PLAN)>			
(1) 今後の事務事業の方向性		(2) 令和8年度以降の改革改善内容(取り組むべき課題)	
① 事業(成果)の方向性	→ 維持		
② コスト(予算)の方向性	→ 維持		

1. 基本情報									
事務事業名 2385 ― 各学科課題研究支援事業									
政策名		4. はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			所属		国分中央高等学校		
施策名		1. 立志と将来への希望を育む学校教育の充実							
基本事業名		4. 専門高校としての魅力を高める高等学校教育の充実			予	会計	01	一般会計	
基本事業の内容 (総合計画より)		①各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性、教育水準の維持向上を図るとともに、学科間の連携した取組を推進し、地域に信頼される魅力ある学校づくりに取り組みます。 ②歴史・伝統を継承しつつ、時代のニーズに応じた高度な専門的技術や知識を持った人材の育成に努めます。 ③進路指導の充実を図るとともに、募集定員の確保に向けた取組を強化します。			算	款	10	教育費	
					科	項	04	高等学校費	
					目	目	03	教育振興費	
					事業期間				昭和30年度～
基本事業の対象・意図		対象(誰・何を)		意図(どうしたいか)		根拠法令 条例等		特になし	
		①国分中央高校 ②③生徒		①専門校としての魅力が高まる ②専門的技術や知識を持つことができる ③主体的な進路選択ができる		関連計画		特になし	

2. 事務事業の事業概要・目的・指標<Do>							
高度な専門的技術や知識を持つ人材を育成するため、専門学科の特性を生かした課題研究への取り組みを支援する。各学科の学習に必要な資料や教材を計画的に購入し、時代のニーズに応じた実践的な授業を展開し、生徒の主体的な進路選択と専門高校としての魅力を高める。							

対象(誰に、何を対象にしているのか)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	R6(実績)	R7(見込)	R7(実績)	R8(見込)
ア	生徒	生徒数	人	760	767	764	738
イ				0	0	0	0
ウ				0	0	0	0
意図(対象をどうしたいのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	R6(実績)	R7(目標)	R7(実績)	R8(目標)
ア	進路決定に役立つ学習ができる	「進路を真剣に考え模試や資格取得等積極的に取組んでいる」と回答した生徒の割合	%	83	90	85	90
イ				0	0	0	0
ウ				0	0	0	0

3. 事業費推移		R6(決算)	R7(決算)	R8(予算)	4. 令和7年度の実績・成果	
事業費(千円)		659	663	726	園芸工学、生活文化、ビジネス情報、スポーツ健康の4学科が持つ特性に沿った教材等を適切に購入し、教育環境の充実を図った。生徒の実践的な学びを支え、時代のニーズに合わせた高度な専門的技術や知識を習得する授業や実習を展開した。	
財源内訳	国庫支出金	0	0	0		
	県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	0	0	0		
一般財源		659	663	726		

5. 振り返り<SEE (check)>			
妥当性	①	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついているか	結びついている
	②	この事業を市が行う必要があるか？ 税金を投入して達成する目的か	実施すべき又は実施しなければならない事業
	③	廃止・休止の影響はあるか	影響がある
有効性	④	成果が向上する余地(可能性)はあるか	向上する余地はない
効率性	⑤	事務事業の手段を工夫することで、事業費を削減できないか 補助金など、交付先に働きかけて市の負担を削減できないか	削減できない
	⑥	事務事業のやり方(DX・外部委託等)を工夫することで、業務時間を削減できないか	削減できない
公平性	⑦	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか また、受益者負担の公平性が確保されているか	公平・公正である

6. 評価結果<(Action-PLAN)>		
(1) 今後の事務事業の方向性		(2) 令和8年度以降の改革改善内容(取り組むべき課題)
① 事業(成果)の方向性	→ 維持	
② コスト(予算)の方向性	→ 維持	

1. 基本情報									
事務事業名 2386 ー 国分中央高校設備整備事業									
政策名		4. はぐみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			所属		国分中央高等学校		
施策名		1. 立志と将来への希望を育む学校教育の充実							
基本事業名		4. 専門高校としての魅力を高める高等学校教育の充実			予 算 科 目		01 一般会計		
基本事業の内容 (総合計画より)		①各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性、教育水準の維持向上を図るとともに、学科間の連携した取組を推進し、地域に信頼される魅力ある学校づくりに取り組みます。 ②歴史・伝統を継承しつつ、時代のニーズに応じた高度な専門的技術や知識を持った人材の育成に努めます。 ③進路指導の充実を図るとともに、募集定員の確保に向けた取組を強化します。					10 教育費		
					04 高等学校費				
					03 教育振興費				
					事業期間		昭和30年度～		
基本事業の対象・意図		対象(誰・何を)		意図(どうしたいか)		根拠法令 条例等		特になし	
		①国分中央高校 ②③生徒		①専門校としての魅力が高まる ②専門的技術や知識を持つことができる ③主体的な進路選択ができる		関連計画		特になし	

2. 事務事業の事業概要・目的・指標<Do>

高度な専門的技術や知識を持つ人材を育成するため、校内のICT環境を適切に整備する。パソコン機器の計画的な更新やネットワーク構築の保守管理を行い、時代のニーズに応じた最新の教育水準を維持することで専門高校としての魅力を高め主体的な進路選択を支援する。

対象(誰に、何を対象にしているのか)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	R6(実績)	R7(見込)	R7(実績)	R8(見込)
ア	生徒	生徒数	人	760	767	764	738
イ				0	0	0	0
ウ				0	0	0	0
意図(対象をどうしたいのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	R6(実績)	R7(目標)	R7(実績)	R8(目標)
ア	パソコンを利用した専門科目の授業を受けられる	ICT環境の利用率	%	100	100	100	100
イ				0	0	0	0
ウ				0	0	0	0

3. 事業費推移		R6(決算)	R7(決算)	R8(予算)	4. 令和7年度の実績・成果
事業費(千円)		13,939	21,439	29,375	情報教育の高度化を図るため、ビジネス情報科、園芸工学科、生活文化科の各実習室及び校務用を含めた計208台のパソコンを最新機種へ更新した。各学科の専門性に即した最新の情報処理機器を導入することで、高度な技能・技術の習得に資する学習環境を構築。あわせて校務用端末の刷新により教職員の事務効率化を推進し、学校全体でのICT活用能力の向上と質の高い教育環境の提供を達成した。
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	0	0	0	
	一般財源	13,939	21,439	29,375	

5. 振り返り<SEE (check) >

妥当性	①	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついているか	結びついている
	②	この事業を市が行う必要があるか？ 税金を投入して達成する目的か	実施すべき又は実施しなければならない事業
	③	廃止・休止の影響はあるか	影響がある
有効性	④	成果が向上する余地(可能性)はあるか	向上する余地はない
効率性	⑤	事務事業の手段を工夫することで、事業費を削減できないか 補助金など、交付先に働きかけて市の負担を削減できないか	削減できない
	⑥	事務事業のやり方(DX・外部委託等)を工夫することで、業務時間を削減できないか	削減できない
公平性	⑦	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか また、受益者負担の公平性が確保されているか	公平・公正である

6. 評価結果<(Action-PLAN)>

(1) 今後の事務事業の方向性		(2) 令和8年度以降の改革改善内容(取り組むべき課題)
① 事業(成果)の方向性	→ 維持	
② コスト(予算)の方向性	→ 維持	